○原子力規制委員会規則第七号

核 原料物質、 核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律 (昭和三十二年法律第百六十六号) 第十四

条第三号、 第十六条の四、 第四十四条の二第一項第四号及び第四十六条の二の規定に基づき、 加工施

設 の位置、 構造及び 設備 の基準に関する規則等の一 部を改正する規則を次のように定める。

令和七年十月三日

原子力規制委員会委員長 山中 伸介

加工施 設 の位置、 構造及び設備 の基準に関する規則等の一 部を改正する規 텕

加 工 施設 \mathcal{O} 位置、 構造及び設 備 \mathcal{O} 基準 に関する規 則 \mathcal{O} 部改 正

第一条 加 工 施 設 \mathcal{O} 位 置、 構造i 及び 設 備 \mathcal{O} 基 準 12 関 する規則 (平成二十五年原子力規制委員会規則第

十七号)の一部を次のように改正する。

次 の表に ょ り、 改 正 前 欄 12 と掲げ る規定 の傍線を付 L 又は破線 で囲 んだ部が 分をこれ に順 次対 応 する

改 正 後 欄 に 掲 げ る規 定 \mathcal{O} 傍線を付 L 文は 破 線で 囲 んだ部 分の ように改め、 改 正 前 欄 及 び 改 正 後 欄 に

対応して掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定 (以下この条にお いて 「対象規定」という。)

は、 その標記部分が同一のものは当該対象規定を改正後欄に掲げるもののように改め、 その標記部

分が異なるものは改正前欄に掲げる対象規定を改正後欄に掲げる対象規定として移動 Ĺ 改 Î 前 欄

に掲げる対象規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていない ものは、 これを加える。

後欄にこれに対応するものを掲げてい

ない

ものは、

これを削

り、

改 正

近後欄

に掲げる対象規定で改正

	に対処するための機能を有する設備をいう。	の機能を有する施設をいう。	は重大事故(以下「重大事故等」と総称する。)に対処するた ̄至るおそれがある事故(設計基準事故を除く。以下同じ。)又 ̄	重大事故等対処施設」とは、加工施設において重大事故に 			第一条 (略) 第一 第一 (定義) (定義)	改 正 後	
をいう。	施設において重大事故の「重大事故等対処設施	称する。)に対処するた	を除く。以下同じ。)又施設において重大事故	里大事故等 (三)	一〜四 (略)	て、	第一条 (略)	改	
	施設において重大事故等に対処するための機能を有する設備六「重大事故等対処設備」とは、プルトニウムを取り扱う加工	称する。)に対処するための機能を有する施設をいう。	じ。) 又は重大事故(以下「重大事故等」と総大事故に至るおそれがある事故(設計基準事故	対処施設」とは、プルトニウムを取り扱う加工	i Z	ろこよる。 次の各号に掲げる用語の意義は、		正前	
	有する設力を	5. j	故等」と	り扱う加		、それぞれ			

(臨界事故の拡大を防止するための設備)

防止するため、次に掲げる設備を設けなければならない。条の二第一号に規定する重大事故が発生した場合にその拡大を第二十八条。プルトニウムを取り扱う加工施設には、加工規則第二

一•二 (略

(閉じ込める機能の喪失に対処するための設備)

防止するため、次に掲げる設備を設けなければならない。条の二第二号に規定する重大事故が発生した場合にその拡大を第二十九条。プルトニウムを取り扱う加工施設には、加工規則第二

一・二 (略)

(重大事故等時に必要となる水源及び水の供給設備)

備を設けなければならない。

| 対事故等に対処するために必要な設備に供給するための設
| 大事故等に対処するための水源として必要な量の水を貯留し、当
| 第三十一条 プルトニウムを取り扱う加工施設には、想定される重

するための設備を設けなければならない。 水を取水し、当該重大事故等に対処するために必要な設備に供給の水源を除く。)から、想定される重大事故等の収束に必要な量の2 プルトニウムを取り扱う加工施設には、海その他の水源(前項

(臨界事故の拡大を防止するための設備)

な次に掲げる重大事故等対処設備を設けなければならない。 条の二第一号に規定する重大事故の拡大を防止するために必要第二十八条 プルトニウムを取り扱う加工施設には、加工規則第二

·二 (略)

(閉じ込める機能の喪失に対処するための設備)

条の二第二号に規定する重大事故の拡大を防止するために必要第二十九条。プルトニウムを取り扱う加工施設には、加工規則第二

な次に掲げる重大事故等対処設備を設けなければならない。

·二 (略)

(重大事故等への対処に必要となる水の供給設備)

するために必要な設備を設けなければならない。 に加えて、重大事故等への対処に必要となる十分な量の水を供給の対処に必要となる十分な量の水を有する水源を確保すること第三十一条 プルトニウムを取り扱う加工施設には、重大事故等へ

(新設)

再 処 理 施 設 の位置、 構造 及び設備の 基準に 関する規 則 の 一 部 改 正

第二条 再 処 理 施 設 \mathcal{O} 位 置、 構造i 及 Ű 設備 \mathcal{O} 基 進 に 関 す る規 則 平 成二十五年 原子力規制 委員 (会規) 則

第二十七号)の一部を次のように改正する。

次 0 表によ り、 改 正 前 欄 12 掲 げ る規定 の傍線 派を付. L 文は 破 線 で 囲 るんだ部れ 分をこれに順 《次対応、 する

改正 後欄 に 掲 プげる! 規 定 0) 傍 線 を付 又 は 破 線 で 囲 ん だ 部 分の ように改め、 改 Ē 前 欄 及 び 改 正 後 欄 に

対応して掲

げ

るそ

 \mathcal{O}

標

記

部

分に二

重

一傍線

を付

L

た

規

定

(以下この条に

お

11

て

「対象規定」

とい

. う。

は、 そ \mathcal{O} 標 記 部分 が 同 \mathcal{O} ŧ \mathcal{O} は 当 該 対 象 規 流定を改T 正 後欄 に掲げ るも \mathcal{O} \mathcal{O} ように改め、 その 標 記 部

分が 異なる t \mathcal{O} は 改 正 前 欄 に 掲 げ る 対象 規 定を 改 正 後 欄 に 掲 げ る 対 象 規定として 移動 Ĺ 改 正 前 欄

に 掲 げ る対 象 規 定 で 改 正 後 欄 に これ に 対応 するも \mathcal{O} を掲 げ 7 11 な 11 t \mathcal{O} は これ を削 り、 改 正 後 欄

に掲げる対象 **規定** で改 Ē 前 欄 にこれ に対応するも \mathcal{O} を掲 げ 7 11 な 1 Ł \mathcal{O} は これ 、 を加い える。

止するための機能を有する	第三十四条 セル内におい	(臨界事故の拡大を防止)	改
る施設には、再処理	て核燃料物質が臨	するための設備)	正
規則第一条の三第一	界に達することを防		後
止するための機能を有する施品	第三十四条 セル内において核	(臨界事故の拡大を防止する	改
設には、再処理規則第	(燃料物質が臨界に達することを防	止するための設備)	正前
一条の三第一	ることを防		

め、次に掲げる設備を設けなければならない。号に規定する重大事故が発生した場合にその拡大を防止するた

- ()
- 質の漏えいを防止するために必要な設備めに必要な設備及び隔離した換気系統の過圧による放射性物ニ 臨界事故が発生した設備に接続する換気系統を隔離するた

三 (略)

第三十五条 セル内において使用済燃料から分離された物であっ(冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための設備)

防止するため、次に掲げる設備を設けなければならない。の発生を防止し、又は当該重大事故が発生した場合にその拡大をする施設には、再処理規則第一条の三第二号に規定する重大事故て液体状のもの又は液体状の放射性廃棄物を冷却する機能を有

- 要な設備 要な設備 一 冷却機能の喪失による蒸発乾固の発生を防止するために必
- 蒸発乾固の進行を緩和するために必要な設備射性物質の気相への移行を抑制し、及び冷却機能の喪失による1 冷却機能の喪失による蒸発乾固が発生した場合において、放
- 換気系統を隔離するために必要な設備及び隔離した換気系統三 冷却機能の喪失による蒸発乾固が発生した設備に接続する

る重大事故等対処設備を設けなければならない。号に規定する重大事故の拡大を防止するために必要な次に掲げ

- 一 (略)
- 質を排出するために必要な設備と遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状ー 臨界事故が発生した設備に接続する換気系統の配管の流路

一 (略)

する施設には、再処理規則第一条の三第二号に規定する重大事故て液体状のもの又は液体状の放射性廃棄物を冷却する機能を有第三十五条(セル内において使用済燃料から分離された物であっ(冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための設備)

一 蒸発乾固の発生を未然に防止するために必要な設備

対処設備を設けなければならない。

の発生又は拡大を防止するために必要な次に掲げる重大事故等

- し、及び蒸発乾固の進行を緩和するために必要な設備二 蒸発乾固が発生した場合において、放射性物質の発生を抑制
- を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状三 蒸発乾固が発生した設備に接続する換気系統の配管の流路

の過圧による放射性物質の漏えいを防止するために必要な設

備

兀 射性物質の放出による影響を緩和するために必要な設備 冷却機能の喪失による蒸発乾固が発生した場合において放

(放射線分解により発生する水素による爆発に対処するための

第三十六条 には、 再処理設備の内部に滞留することを防止する機能を有する施設 防止し 設備) 再処理規則第一条の三第三号に規定する重大事故の発生を 又は当該重大事故が発生した場合にその拡大を防止する セル内において放射線分解によって発生する水素が

いて「水素爆発」という。)の発生を防止するために必要な設 放射線分解により発生する水素による爆発(以下この条にお ため、

次に掲げる設備を設けなければならない。

二 (略)

に必要な設備及び隔離した換気系統の過圧による放射性物 水素爆発が発生した設備に接続する換気系統を隔離するた

質の漏えいを防止するために必要な設備

兀 略

> 質を排出するために必要な設備 態になった場合にセル内に設置された配管の外部 へ放射性物

兀 影響を緩和するために必要な設備 蒸発乾固が発生した場合において放射性物質の放出による

(放射線分解により発生する水素による爆発に対処するための

設備

第三十六条 は拡大を防止するために必要な次に掲げる重大事故等対処設備 には、 再処理設備の内部に滞留することを防止する機能を有する施設 を設けなければならない。 再処理規則第一条の三第三号に規定する重大事故の発生又 セル内において放射線分解によって発生する水素が

要な設備 V て「水素爆発」という。)の発生を未然に防止するために必 放射線分解により発生する水素による爆発(以下この条にお

(略)

質を排出するために必要な設備 態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状 水素爆発が発生した設備に接続する換気系統の配管の流路 放射性物

匹 (略

6

(有機溶媒等による火災又は爆発に対処するための設備)

るため、次に掲げる設備を設けなければならない。を防止し、又は当該重大事故が発生した場合にその拡大を防止す設には、再処理規則第一条の三第四号に規定する重大事故の発生第三十七条 セル内において有機溶媒その他の物質を内包する施

- 防止するために必要な設備
 リブチルの混入による急激な分解反応によるものを除く。)を
 一 有機溶媒その他の物質による火災又は爆発の発生(りん酸ト
- がない状態を維持するために必要な設備において当該火災を収束させ、又は爆発が続けて生じるおそれ二、有機溶媒その他の物質による火災又は爆発が発生した場合
- に必要な設備
 た換気系統の過圧による放射性物質の漏えいを防止するために接続する換気系統を隔離するために必要な設備及び隔離し三 有機溶媒その他の物質による火災又は爆発が発生した設備
- な設備において放射性物質の放出による影響を緩和するために必要において放射性物質の放出による影響を緩和するために必要四一有機溶媒その他の物質による火災又は爆発が発生した場合

(放射性物質の漏えいに対処するための設備)

えいを防止するための機能を有する施設には、再処理規則第一条第三十九条 建屋内において系統又は機器からの放射性物質の漏

(有機溶媒等による火災又は爆発に対処するための設備

備を設けなければならない。

| 又は拡大を防止するために必要な次に掲げる重大事故等対処設設には、再処理規則第一条の三第四号に規定する重大事故の発生第三十七条 セル内において有機溶媒その他の物質を内包する施

- に必要な設備 分解反応により発生するものを除く。)を未然に防止するため分解反応により発生するものを除く。)を未然に防止するため 火災又は爆発の発生(リン酸トリブチルの混入による急激な
- させるために必要な設備 火災又は爆発が発生した場合において火災又は爆発を収束
- 性物質を排出するために必要な設備と状態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射所とでである。一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、
- よる影響を緩和するために必要な設備 火災又は爆発が発生した場合において放射性物質の放出に

(放射性物質の漏えいに対処するための設備

| て同じ。 | において系統又は機器からの放射性物質の漏えいを防第三十九条 | セル内又は建屋内(セル内を除く。以下この条におい

設けなければならない。
故が発生した場合にその拡大を防止するため、次に掲げる設備をの三第六号に規定する重大事故の発生を防止し、又は当該重大事

必要な設備 - 系統又は機器からの放射性物質の漏えいを防止するために

月 万 日 月

(略)

要な設備
気系統の過圧による放射性物質の漏えいを防止するために必気系統の過圧による放射性物質の漏えいを防止するために必換にが変な設備及び隔離した換三系統又は機器から放射性物質の漏えいが発生した施設に接

四 (略)

(重大事故等時に必要となる水源及び水の供給設備)

するための設備を設けなければならない。
る重大事故等に対処するための水源として必要な量の水を貯留第四十一条 再処理施設には、次に掲げるところにより、想定され

い。

「中る施設にあっては、第三号を除く。」を設けなければならな続又は機器からの放射性物質の漏えいを防止するための機能をために必要な次に掲げる重大事故等対処設備(建屋内において系ために必要な次に掲げる重大事故の発生又は拡大を防止する上するための機能を有する施設には、必要に応じ、再処理規則第止するための機能を有する施設には、必要に応じ、再処理規則第

ために必要な設備 系統又は機器からの放射性物質の漏えいを未然に防止する

二 (略)

された配管の外部へ放射性物質を排出するために必要な設備び換気系統の配管内が加圧状態になった場合にセル内に設置続する換気系統の配管の流路を遮断するために必要な設備及ニ 系統又は機器から放射性物質の漏えいが発生した設備に接

四 (略)

重大事故等への対処に必要となる水の供給設備)

第四十一条 設計基準事故への対処に必要な水源とは別に、重大事第四十一条 設計基準事故への対処に必要な水源とは別に、重大事故等への対処に必要となる十分な量の水を有する水源を確保す

			2					
けなければならない。	事故等に対処するために必要な設備に供給するための設備を設	想定される重大事故等の収束に必要な量の水を取水し、当該重大	□ 再処理施設には、海その他の水源(前項の水源を除く。)から、	に必要な設備に供給できるものとすること。	二 その貯留された水を、想定される重大事故等に対処するため	に必要な量の水を貯留できるものとすること。	当該設計基準事故及び想定される重大事故等に対処するため	一 設計基準事故の収束に必要な水を貯留するものにあっては、
			(新設)		(新設)			(新設)

加 工 施 設 の技術基準に関する規 別の一 部改 Ē

第三条 加 工 施 設 \mathcal{O} 技術 基 全準に関う する 規則 (令和二年原子力規制委員会規則第六号) の 一 部を次のよ

うに改正する。

後欄

に

掲げる規

定

 \mathcal{O}

破

井

前 欄

及

び

改正

12

改正 次 \mathcal{O} 表により り、 改 Ī 前 傍線を付 欄に掲げる規定 し又はな の傍線を付し又は破線 線で んだ部分のように改め、 で囲 図んだ部² 改正 分をこれに 順 次対 応 後欄 する

対応して掲げるその標記 部分に二重傍線 を付 L た規定 (以下この条におい て「対象規定」という。)

は、 その標記 部分が 同 \mathcal{O} ŧ \mathcal{O} は当 該対象規定を改正 後欄に掲げるもののように改め、 その 標記 部

分が異なるものは改正前欄に掲げる対象規定を改正後欄に掲げる対象規定として移動し、 改正前欄

に掲げる対象規定で改正後欄にこれに対応するものを掲げていないものは、 これを削り、 改 正 並後欄

に掲げる対象規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていないものは、

これを加える。

3							0	烘		
3 (略)	ための措置が講じられたものでなければならない。	性子の遮蔽材の使用又はこれらの組合せにより臨界を防止する	の適切な配置の維持若しくは単一ユニットの相互間における中	燃料物質が臨界に達するおそれがないよう、単一ユニット相互間	しくはその誤作動又は運転員の単一の誤操作が起きた場合に、核	において、通常時に予想される機械若しくは器具の単一の故障若	2 安全機能を有する施設は、単一ユニットが二以上存在する場合	第四条 (略)	(核燃料物質の臨界防止)	改 正 後
3 (略)	るための措置が講じられたものでなければならない。	中性子の遮蔽材の使用又はこれらの組合せにより臨界を防止す	間の適切な配置の維持若しくは単一ユニットの相互間における	核燃料物質が臨界に達するおそれがないよう、単一ユニット相互	若しくはその誤作動又は運転員の単一の誤操作が起きた場合に、	合において、通常時に予想される機械若しくは器具の単一の故障	2 安全機能を有する施設は、単一ユニットが二つ以上存在する場	第四条 (略)	(核燃料物質の臨界防止)	改正前

第三十二条

プルトニウムを取り扱う加工施設には、

加工規則第二

第三十二条

(臨界事故の拡大を防止するための設備)

条の二第一号に掲げる重大事故の拡大を防止するため

プルトニウムを取り扱う加工施設には、

加工規則第二

に必要な

次に掲げる重大事故等対処設備が設けられていなければならな

(臨界事故の拡大を防止するための設備)

止するため、次に掲げる設備が設けられていなければならない。条の二第一号に掲げる重大事故が発生した場合にその拡大を防

(略)

(閉じ込める機能の喪失に対処するための設備)

第三十三条。プルトニウムを取り扱う加工施設には、

加工規則第二

止するため、次に掲げる設備が設けられていなければならない。 条の二第二号に掲げる重大事故が発生した場合にその拡大を防

(略

(重大事故等時に必要となる水源及び水の供給設備)

第三十五条 該重大事故等に対処するために必要な設備に供給するための設 大事故等に対処するための水源として必要な量の水を貯留し プルトニウムを取り扱う加工施設には、想定される重 当

備が設けられていなければならない。

2 水を取水し、 の水源を除く。)から、想定される重大事故等の収束に必要な量の するための設備が設けられていなければならない。 プルトニウムを取り扱う加工施設には、海その他の水源 当該重大事故等に対処するために必要な設備に供給 (前項

** ،

(略)

(閉じ込める機能の喪失に対処するための設備)

第三十三条 プルトニウムを取り扱う加工施設には、 条の二第二号に掲げる重大事故の拡大を防止するために必要な 加工規則第二

次に掲げる重大事故等対処設備が設けられていなければならな

_ <u>:</u> (略

第三十五条 重大事故等への対処に必要となる水の供給設備 プルトニウムを取り扱う加工施設には、 重大事故等へ

に加えて、 の対処に必要となる十分な量の水を有する水源を確保すること 重大事故等への対処に必要となる十分な量の水を供給

するために必要な設備が設けられていなければならない。

(新設)

再処理施設の技術基準に関する規則の一 部改正)

第四 一 条 再処 理 施 設 \mathcal{O} 技術 基 生に関 する規 則 (令和二年 ·原 子 ,力規制の 委員会規則第九号) 0) 部 がを次 \mathcal{O}

ように 改 正 す ź。

次 \mathcal{O} 表 に ょ り、 改 正 前 欄 12 掲 げ る規定 の傍線を付 L 文は 破 線 で囲 こんだ部れ 分をこれ に順 次 対 孞 する

改 Ĩ 後 欄 に 掲 げ る規 定 \mathcal{O} 傍線 を付 L 又 は 破 線 で 囲 W だだ 部 分の ように改め、 改 Ē 前 欄 及 び 改 正 後 欄 に

対 応 L て掲 げ るそ \mathcal{O} 標 記 部 分に二 重 一傍線 を 付 L た 規 定 (以下この 条にお 1 7 対 象 規定」 とい う。

分が 異なる ŧ \mathcal{O} は 改 正 前 欄 に 撂 げ る 対象 規 定を 改 正 後 欄 に 掲 げ る 対 象 規定とし 7 移 動 Ļ 改 正 前 欄

は、

そ

 \mathcal{O}

標

記

部

分

が

同

 \mathcal{O}

ŧ

 \mathcal{O}

は

当

該

対

象

規

定

を改

正

後

欄

12

撂

げ

る

ŧ

 \mathcal{O}

 \mathcal{O}

ように改

め、

そ

 $\tilde{\mathcal{O}}$

標

記

部

に 掲 げ る 対 象 規定 で 改 正 後 欄 12 れ に 対 応 する ŧ \mathcal{O} を 掲 げ 7 1 な 1 t \mathcal{O} は これ を削 り、 改 正 後 欄

に 掲 だげる対象 象規定で改正 前 欄 に これ に 対応するも \mathcal{O} を掲 げ 7 11 な 11 t 0 は これ を加 える。

		-/
改正後	日 段	前
(核燃料物質の臨界防止)	(核燃料物質の臨界防止)	
第四条 (略)	第四条 (略)	
2 安全機能を有する施設は、単一ユニットが二以上存在する場合	2 安全機能を有する施設は、単一ユニ	ユニットが二つ以上存在する場
において、運転時に予想される機械若しくは器具の単一の故障若	合において、運転時に予想される機械	械若しくは器具の単一の故障
しくはその誤作動又は運転員の単一の誤操作が起きた場合に、核	若しくはその誤作動又は運転員の単一	の誤操作が起きた場合に、

ための措置が講じられたものでなければならない。性子の遮蔽材の使用又はこれらの組合せにより臨界を防止するの適切な配置の維持若しくは単一ユニットの相互間における中燃料物質が臨界に達するおそれがないよう、単一ユニット相互間

3 (略

(臨界事故の拡大を防止するための設備

次に掲げる設備が設けられていなければならない。
号に掲げる重大事故が発生した場合にその拡大を防止するため、止するための機能を有する施設には、再処理規則第一条の三第一第三十八条 セル内において核燃料物質が臨界に達することを防

一 (略)

質の漏えいを防止するために必要な設備めに必要な設備及び隔離した換気系統の過圧による放射性物の。 臨界事故が発生した設備に接続する換気系統を隔離するた

三(略)

(冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための設備)

する施設には、再処理規則第一条の三第二号に掲げる重大事故のて液体状のもの又は液体状の放射性廃棄物を冷却する機能を有第三十九条。セル内において使用済燃料から分離された物であっ

るため 中 間 核燃料物質が臨界に達するおそれがないよう、 -性子の遮蔽材の 0 適切な配置の維持若しくは単一ユニット の措置が講じられたものでなければならない。 使用又はこれらの組合せにより臨 \mathcal{O} 単一 相 互 ユ 界 間 ニット を防 に お 止 け 相 す る 互

(略

3

、臨界事故の拡大を防止するための設備

重大事故等対処設備が設けられていなければならない。
号に掲げる重大事故の拡大を防止するために必要な次に掲げる
止するための機能を有する施設には、再処理規則第一条の三第一

一 (略)

質を排出するために必要な設備態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射性物態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射性物で遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状二 臨界事故が発生した設備に接続する換気系統の配管の流路

三 (略)

(冷却機能の喪失による蒸発乾固に対処するための設備)

する施設には、再処理規則第一条の三第二号に掲げる重大事故のて液体状のもの又は液体状の放射性廃棄物を冷却する機能を有第三十九条 セル内において使用済燃料から分離された物であっ

止するため、次に掲げる設備が設けられていなければならない。発生を防止し、又は当該重大事故が発生した場合にその拡大を防

一 冷却機能の喪失による蒸発乾固の発生を防止するために必

要な設備

- 蒸発乾固の進行を緩和するために必要な設備射性物質の気相への移行を抑制し、及び冷却機能の喪失による二 冷却機能の喪失による蒸発乾固が発生した場合において、放
- 備 の過圧による放射性物質の漏えいを防止するために必要な設換気系統を隔離するために必要な設備及び隔離した換気系統三 冷却機能の喪失による蒸発乾固が発生した設備に接続する
- 射性物質の放出による影響を緩和するために必要な設備四一冷却機能の喪失による蒸発乾固が発生した場合において放

設備) (放射線分解により発生する水素による爆発に対処するための

し、又は当該重大事故が発生した場合にその拡大を防止するたは、再処理規則第一条の三第三号に掲げる重大事故の発生を防止処理設備の内部に滞留することを防止する機能を有する施設に第四十条。セル内において放射線分解によって発生する水素が再

一 放射線分解により発生する水素による爆発(以下この条にお

次に掲げる設備が設けられていなければならない。

め、

処設備が設けられていなければならない。発生又は拡大を防止するために必要な次に掲げる重大事故等対

- 蒸発乾固の発生を未然に防止するために必要な設備
- し、及び蒸発乾固の進行を緩和するために必要な設備蒸発乾固が発生した場合において、放射性物質の発生を抑制
- 質を排出するために必要な設備態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射性物態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射性物を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加圧状态発電が発生した設備に接続する換気系統の配管の流路

影響を緩和するために必要な設備 蒸発乾固が発生した場合において放射性物質の放出による

(放射線分解により発生する水素による爆発に対処するための

大を防止するために必要な次に掲げる重大事故等対処設備が設は、再処理規則第一条の三第三号に掲げる重大事故の発生又は拡処理設備の内部に滞留することを防止する機能を有する施設に第四十条 セル内において放射線分解によって発生する水素が再設備)

一 放射線分解により発生する水素による爆発(以下この条にお

けられていなければならない。

いて「水素爆発」という。)の発生を防止するために必要な設

二 (略)

三 めに必要な設備及び隔離した換気系統の過圧による放射性物 質の漏えいを防止するために必要な設備 水素爆発が発生した設備に接続する換気系統を隔離するた

兀 略

(有機溶媒等による火災又は爆発に対処するための設備)

第四十一条 防止し、 設には、 再処理規則第一条の三第四号に掲げる重大事故の発生を 又は当該重大事故が発生した場合にその拡大を防止する セル内において有機溶媒その他の物質を内包する施

ため、

次に掲げる設備が設けられていなければならない。

- 防止するために必要な設備 リブチルの混入による急激な分解反応によるものを除く。)を 有機溶媒その他の物質による火災又は爆発の発生(りん酸ト
- において当該火災を収束させ、又は爆発が続けて生じるおそれ 有機溶媒その他の物質による火災又は爆発が発生した場合 状態を維持するために必要な設備
- に接続する換気系統を隔離するために必要な設備及び隔離し 有機溶媒その他の物質による火災又は爆発が発生した設備

いて「水素爆発」という。) の発生を未然に防止するために必

要な設備

(略)

三 質を排出するために必要な設備 態になった場合にセ を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内 水素爆発が発生した設備に接続する換気系統の ル内に設置された配管の外部 配管の へ放射 が 加圧状 性 流 物 路

(略)

兀

(有機溶媒等による火災又は爆発に対処するための設備

第四十一 は拡大を防止するために必要な次に掲げる重大事故等対処設備 が設けられていなければならない。 設には、再処理規則第一条の三第四号に掲げる重大事故の発生又 条 セル内において有機溶媒その他の物質を内包する施

- に必要な設備 分解反応により発生するものを除く。)を未然に防止するため 火災又は爆発の発生(リン酸トリブチルの混入による急激な
- させるために必要な設備 火災又は爆発が発生した場合において火災又は爆発を収
- 三 流路を遮断するために必要な設備及び換気系統の配管内が加 火災又は爆発が発生した設備に接続する換気系統の 配管 \mathcal{O}

に必要な設備た換気系統の過圧による放射性物質の漏えいを防止するため

な設備において放射性物質の放出による影響を緩和するために必要において放射性物質の放出による影響を緩和するために必要四一有機溶媒その他の物質による火災又は爆発が発生した場合

(放射性物質の漏えいに対処するための設備)

二 (略)

気系統の過圧による放射性物質の漏えいを防止するために必続する換気系統を隔離するために必要な設備及び隔離した換三 系統又は機器から放射性物質の漏えいが発生した施設に接

要な設備

性物質を排出するために必要な設備圧状態になった場合にセル内に設置された配管の外部へ放射

よる影響を緩和するために必要な設備 火災又は爆発が発生した場合において放射性物質の放出に

(放射性物質の漏えいに対処するための設備)

第四十三条 セル内又は建屋内(セル内を除く。以下この条におい 第四十三条 セル内又は建屋内(セル内を除く。以下この条におい で同じ。)において系統又は機器からの放射性物質の漏えいを防止するための機能を有する施設には、必要に応じ、再処理規則第 で同じ。)において系統又は機器からの放射性物質の漏えいを防止するた でいなければならない。

ために必要な設備 - 系統又は機器からの放射性物質の漏えいを未然に防止する

二 (略)

された配管の外部へ放射性物質を排出するために必要な設備び換気系統の配管内が加圧状態になった場合にセル内に設置続する換気系統の配管の流路を遮断するために必要な設備及三 系統又は機器から放射性物質の漏えいが発生した設備に接

附

則